



▲インプレッションキャップを装着し、シリコン印象材でトランシスファー印象をおこなう。



▲ラボにて作業模型を作製する。



▲チタンベースを用いてスクリューリテインの上部構造を作製。ジルコニアクラウンをチタンベースにセメント合着し、スクリューリテイング形態とした。



▲IS-II active埋入後のデンタルX線像



▲粘膜治癒後の口腔内所見



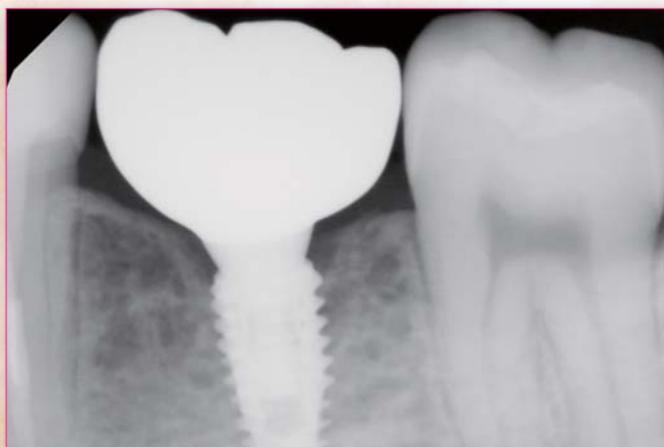
▲術後のCT像

本症例は、全顎的な咬合再建が必要な症例であったため、現在も処置が進行中の症例である。
補綴については次号以降の本誌にて報告をする。

IS-II active症例紹介(ピックキャップインプレッションキットを用いて補綴物を作製した症例)



▲最終補綴物装着後の口腔内所見

▲下顎左側6番相当部にIS-II activeを埋入した($\varnothing=4.5\text{mm}$, $L=8.5\text{mm}$)。

まとめ

IS-II activeは臨床家により考案されたシステムであり、シェアサイドでの3S (Simple・Speedy・Safety) 使いやすさを最大限に考えられたシステムである。本システムは周辺ツールが充実していることもあり、安心して治療に臨むことができる。次回においてはIS-II activeの印象方法なども紹介したい。



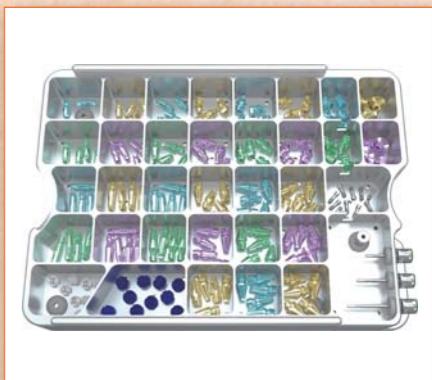
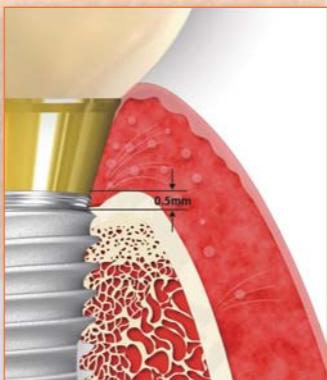
杵屋 順一 先生

杵屋歯科医院(長崎市)
日本口腔インプラント学会専門医
日本顎咬合学会咬み合わせ認定医
日本歯周病学会会員
日本臨床歯周病学会会員
Neobiotech社公認インストラクター

杵屋 順一先生 講演会 開催中

5月	20日(日)	[金沢]
6月	17日(日)	[博多]
	24日(日)	[北九州]
7月	22日(日)	[愛媛]
8月	5日(日)	[札幌]
	19日(日)	[東京]
9月	30日(日)	[名古屋]
10月	13日(土)	[南大阪]
	14日(日)	[明石]
	21日(日)	[宮崎]
11月	18日(日)	[浜松]

インプラントジャーナル73号より
杵屋順一先生著
「Neobiotech CMIインプラント
IS-II activeの臨床」掲載中

▲治癒期間終了後、ヒーリングアバットメントを外した状態。
バイオシールにより、健全な結合組織を有した生物学的幅広を確保することができた。▲今回、印象に使用したピックキャップインプレッションキット
(クローズドトレー用キットである)▲アバットメントポジショナーを用いて、インプレッションコーピングを装着。
インプレッションコーピング内にヘックスドライバーを貫通させることで、インプレッションコーピングの装着からスクリューの締結までの操作を最大限簡素化できる。
また、各種パーツ(アバットメント、印象パーツ、スクリュー等)の落下・脱落による誤飲等のトラブルを回避できる。